

スナフキンが伝える学生の一人旅

ムーミン・シリーズに登場する緑の帽子を被り、物憂げな目をしたキャラクター、スナフキン。彼は旅することを愛し、いつも一人で旅に出ている。そんな彼のように一人旅を繰り返している学生が集まった団体がある。

学生団体スナフキンは国内外を一人旅する大学生たちが、その魅力を伝えるために活動している。団体が設立されたのは2009年。一人の慶應生があるSNSの日記を見て一人旅に魅了され、東南アジアを一人で旅したことから始まった。その学生団体スナフキンの代表であり、自身もたくさんの一人旅経験を持つ筑波大学三年の内田洋介さんにお話を伺った。

スナフキンという団体名には、スナフキンがムーミンを導くように旅へと人をいざなうという意味が込められている。この団体はフリーペーパーの発行、写真展の開催などのイベントを通して旅の魅力を伝えている。写真をふんだんに使うことで旅を視覚的に紹介し、情報誌とは違う形を取っているのが特徴の一つである。彼らの活動をきっかけに実際に旅に出かける人が増えることが彼らの喜びだ。

一人旅は仲間で行く旅とは何が違うのだろうか。内田さんは仲間とだとそのグループ内で楽しむことに重点が置かれてしまうが、一人旅だと自然と周囲の世界を注意深く見るようになるという。日常とは違う空間に身を置いていることをより強く意識できる、それが一人旅の魅力であると語る。

旅を通じて見知らぬ国を歩き回ることには魅力があると同時に危険も潜んでいる。「無理をしないことが大切、安全はある程度お金で買うことができる」と内田さんは注意を促す。例えば、移動の際に格安のバスが治安の悪い地域を通るのであれば、少しお金を出してでも飛行機を使うといったことだ。一人旅を冒険と捉え気張ってしまい安全を失うのは危険だと語る。

内田さんはもしサークルやバイトだけの日常にマンネリを感じているならぜひ一人で旅をしてみてもと薦めた。学生が見知らぬ国を一人旅することは勇気のいることだ。しかし学生だからこそ持っている時間、物事を吸収する力がある。その特権を一人旅で有効活用してみるのはどうだろうか。